

国際関係論	・・・P1～
ジェンダー・セクシュアリティ論	・・・P2～
画像医学	・・・P4～
がんリハビリテーション学	・・・P6～
災害リハビリテーション論	・・・P8～
研究方法論	・・・P10～
医療統計学演習	・・・P12～
理学療法研究法演習	・・・P14～
生体運動計測学	・・・P15～
国際理学療法論	・・・P17～
理学療法管理学	・・・P19～
物理療法学演習	・・・P21～
義肢装具学	・・・P22～
義肢装具学演習	・・・P23～
運動器障害理学療法学演習	・・・P25～
神経障害理学療法学演習	・・・P27～
内部障害理学療法学	・・・P29～
内部障害理学療法学演習	・・・P30～
内部障害理学療法学特論	・・・P31～
発達障害理学療法学	・・・P32～
発達障害理学療法学演習	・・・P33～
老年期理学療法学	・・・P34～
老年期理学療法学演習	・・・P35～
日常生活動作分析援助学演習	・・・P37～
痛みに対する理学療法学	・・・P39～
痛みに対する理学療法学演習	・・・P40～
予防理学療法学	・・・P42～
予防理学療法学演習	・・・P43～
がん理学療法学	・・・P44～
がん理学療法学演習	・・・P45～
スポーツ理学療法学	・・・P47～
地域理学療法学演習	・・・P48～
基本的臨床技能演習	・・・P49～
臨床実習Ⅲ	・・・P51～
臨床実習Ⅳ	・・・P52～

科目名	国際関係論【保健3】	科目名(英語)	国際関係論
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	吉高神明		
開講年次	3	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視角と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル(global+local)」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダーク・ツーリズム」などのテーマを取り上げる予定である。</p>			
学習目標			
<p>本講義が設定する学習目標は以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係論の分析視角と考察枠組みについて、一定の理解を有するようになる</li> <li>2. 転換期を迎えた世界、日本、福島の現状と課題について、体系的に理解できるようになる。</li> <li>3. 現在関心を集めている国際問題について、自分なりの説明と分析を行えるようになる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク①	吉高神明
第2回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク②	吉高神明
第3回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク③	吉高神明
第4回		転換期を迎えた世界、アジア、日本を考察するためのフレームワーク④	吉高神明
第5回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性①	吉高神明
第6回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性②	吉高神明
第7回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性③	吉高神明
第8回		よりよい世界に向けた取り組み:「BOPビジネス」の可能性④	吉高神明
第9回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」①	吉高神明
第10回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」②	吉高神明
第11回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」③	吉高神明
第12回		変化する世界の中の日本:焦点としての「クール・ジャパン」④	吉高神明
第13回		3.11からの復興と「ダーク・ツーリズム」①	吉高神明
第14回		3.11からの復興と「ダーク・ツーリズム」②	吉高神明
第15回		まとめ	吉高神明
テキスト	授業の際に、必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	<p>自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。</p> <p>首相官邸: <a href="http://www.kantei.go.jp">http://www.kantei.go.jp</a></p> <p>外務省: <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj">http://www.mofa.go.jp/mofaj</a></p> <p>福島県庁: <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/">https://www.pref.fukushima.lg.jp/</a></p>		
成績の評価方法	<p>授業の最終成績は、以下の基準に基づいて決定する。</p> <p>出席・小レポート・授業への貢献状況: 20点</p> <p>授業の際に出される諸課題: 30点</p> <p>最終レポート: 50点</p>		
その他	<p>「国際関係論」は理系学生にとっては聞きなれない学問分野であるが、政治、経済、外交、安全保障の問題についての基礎的知識のない学生にも配慮しつつ、授業を展開する予定である。授業は原則的に講義中心で行うが、リサーチ実習、グループ討論、個人発表なども積極的に取り入れていきたい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。</p>		

科目名	ジェンダー・セクシュアリティ論【保健3】	科目名(英語)	ジェンダー・セクシュアリティ論
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	有吉健太郎		
開講年次	3	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>ジェンダー/セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄(性別、性差、性欲、性行為など)について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー/セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー/セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>①近代家族と女性の就労について基本知識を習得し、性別を問わず誰もが自分らしい人生を送れる社会をつくるために自分たちに何ができるかを考えることができる。  ②ジェンダー非対称構造による女性の性被害の実現について知り、性の自己決定権・性的自由という考え方がなぜ必要不可欠なのかについて説明できるようになる。  ③性自認および性的指向(SOGI)と日本における性的マイノリティをとりまく現状について学び、その知識を専門医療技術者としてまた一人の社会人としての行動に繋げることができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		イントロダクション	前川直哉(福島大学)
第2回		近代家族と性別役割分業観	前川直哉(福島大学)
第3回		女性の就労とM字カーブ(1)	前川直哉(福島大学)
第4回		女性の就労とM字カーブ(2)	前川直哉(福島大学)
第5回		男性ホモソーシャル大国・日本	前川直哉(福島大学)
第6回		福島県におけるジェンダーの現状と課題	前川直哉(福島大学)
第7回		医療現場とジェンダー	前川直哉(福島大学)
第8回		性的自由と性暴力	前川直哉(福島大学)
第9回		セクシュアル・ハラスメント	前川直哉(福島大学)
第10回		視線の力学におけるジェンダー非対称	前川直哉(福島大学)
第11回		性自認と性的指向	前川直哉(福島大学)
第12回		同性愛と同性婚	前川直哉(福島大学)
第13回		トランスジェンダーと性同一性障害	前川直哉(福島大学)
第14回		医療と性的マイノリティ	前川直哉(福島大学)
第15回		まとめと振り返り	前川直哉(福島大学)
テキスト	なし。毎回の授業時にレジュメを配布する。		

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画統計研究会編『男女共同参画統計データブック2015：日本の女性と男性』（ぎょうせい、2015年）</li> <li>・角田由紀子『性と法律——変わったこと、変えたいこと』（岩波新書、2013年）</li> <li>・石田仁『はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで』（ナツメ社、2019年）</li> <li>・森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）</li> <li>・前川直哉『男の絆：明治の学生からボーイズ・ラブまで』（筑摩書房、2011年）</li> <li>・前川直哉『〈男性同性愛者〉の社会史：アイデンティティの受容／クローゼットへの解放』（作品社、2017年）</li> </ul>
成績の評価方法	<p>成績評価は ①出席状況 ②授業への参加状況 ③授業内の小テスト・課題 ④期末試験 に基づき行う。出席状況または授業への参加状況が著しく悪い場合は期末試験の受験を認めない場合がある。</p>
その他	

科目名	画像医学【保健3】	科目名(英語)	画像医学
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	佐藤久志(診療放射線科学科)		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 画像診断に必要な画像解剖を知る。</li> <li>2. 画像診断法について知る。</li> <li>3. 臓器毎、疾患毎の画像診断学の基礎を学ぶ。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		画像医学総論 画像診断装置 治療と画像医学	佐藤久志(診療放射線科学科)
第2回		画像診断の進め方 中枢神経 (MRI, CT)	伊藤浩(医学部放射線科学講座)
第3回		中枢神経 (核医学を中心に)	伊藤浩(医学部放射線科学講座)
第4回		胸部(肺) (CTを中心に)	森谷浩史(大原総合病院)
第5回		胸部(循環器) (MRI, CT, 核医学を中心に)	関野啓史(医学部放射線科学講座)
第6回		腹部(肝・胆・膵) (MRIを中心に)	藤巻秀樹(放射線医学講座)
第7回		腹部(肝・胆・膵) (CT, 核医学を中心に)	藤巻秀樹(放射線医学講座)
第8回		腹部(消化管) (CTを中心に)	歌野健一(会津医療センター)
第9回		腹部(泌尿器) (MRI, CT, 核医学を中心に)	長谷川靖(放射線医学講座)
第10回		腹部(婦人科・乳腺) (MRI, CT, 核医学を中心に)	長谷川靖(放射線医学講座)
第11回		筋肉・骨・関節 (MRI, CT, 核医学を中心に)	箱崎元晴(放射線医学講座)
第12回		腫瘍・骨・炎症・内分泌 (核医学を中心に)	石井士朗(放射線医学講座)
第13回		IVR(血管IVRをメインとして非血管IVRも含む)	関野啓史(放射線医学講座)
第14回		救急	黒岩大地(放射線医学講座)
第15回		まとめ	佐藤久志(診療放射線科学科)
テキスト			
参考書	画像診断学 南山堂		

成績の評価方法	レポート100%
その他	

科目名	がんリハビリテーション学【保健3】	科目名(英語)	がんリハビリテーション学
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	五百川和明		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修(作業療法学科), 選択(理学療法学科)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、がんの病態と医学的治療、がんリハビリテーション、及びチーム医療の実践に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、がんリハビリテーションの概要、乳がんや脳腫瘍、頭頸部がん、骨・軟部腫瘍等の周術期のリハビリテーション、化学療法や放射線医療、造血器腫瘍とリハビリテーション、がんによる各種障害、緩和ケア、がん患者の心のケア等について学び、がんの各疾患や病期、特性等を踏まえたリハビリテーションについて理解を深める。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんの病態と治療について説明できる。</li> <li>2. がんリハビリテーションの目的とチーム医療の役割について説明できる。</li> <li>3. がんの各疾患別のリハビリテーションについて、治療法や病期に応じたリハビリテーションの目的と基本的な介入方法について説明できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		がんリハビリテーションの概要 チーム医療の役割	矢吹省司(理学療法学科)
第2回		周術期リハビリテーション(開胸・開腹術)	河野浩二(医学部消化管外科学講座)
第3回		周術期リハビリテーション(乳がん)	大竹徹(医学部乳腺外科学講座)
第4回		周術期リハビリテーション(脳腫瘍)	藤井正純(医学部脳神経外科学講座)
第5回		周術期リハビリテーション(頭頸部がん)	川瀬友貴(医学部耳鼻咽喉科学講座)
第6回		周術期リハビリテーション(骨・軟部腫瘍、脊髄腫瘍)	矢吹省司(理学療法学科)
第7回		化学療法とリハビリテーション	佐治重衡(医学部腫瘍内科学講座)
第8回		造血器腫瘍、造血幹細胞移植とリハビリテーション	森下慎一郎(理学療法学科)
第9回		骨転移とリハビリテーション	矢吹省司(理学療法学科)
第10回		がんによるADL・IADL障害とリハビリテーション	高橋勝(附属リハビリテーションセンター)
第11回		がんによる摂食・嚥下障害・コミュニケーション障害とリハビリテーション	菅野和広(附属リハビリテーションセンター)
第12回		がんによる高次脳機能障害とリハビリテーション	二村美也子(附属リハビリテーションセンター)
第13回		リンパ浮腫とリハビリテーション	山本優一(北福島医療センター)
第14回		緩和ケアとリハビリテーション	佐藤薫(医学部麻酔科学講座)
第15回		がん患者の心のケアとリハビリテーション	三浦至(医学部神

回		経精神医学講座)
テキスト	辻哲也、編 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻 がんのリハビリテーション 医学書院 2018	
参考書	辻哲也編 がんリハビリテーションマニュアル 医学書院 2016	
成績の評価方法	定期試験100%	
その他		



科目名	災害リハビリテーション論【保健3】	科目名(英語)	災害リハビリテーション論
区分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>本科目は、災害時の医療とリハビリテーション専門職に求められる活動に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、災害時の各フェーズ（被災混乱期・応急修復期・復旧期・復興期）とリハビリテーションアプローチ、災害支援チームの在り方、支援活動と倫理、被災者の心の支援、平時の体制と準備、災害ボランティアの役割と活動、及び国際協力と災害リハビリテーション等について学び、災害支援の在り方について理解を深める。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」及び「危機対応・災害医療」に対応する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 災害リハビリテーションの役割について説明できる。  2) 災害フェーズ別のリハビリテーション支援の概要について説明できる。  3) 災害に備えた平時の体制、準備とボランティア活動の役割を理解し、説明できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		災害リハビリテーション総論、大規模災害とは	大井直住 (医学部リハビリテーション医学講座)
第2回		災害フェーズ分類と対応	島田二郎 (ふたば救急総合医療支援センター)
第3回		各フェーズにおける災害医療	同上
第4回		各フェーズにおける災害リハビリテーション	矢吹省司 (理学療法学科)
第5回		災害支援チームの在り方	島野光正 (郡山医療介護病院)
第6回		災害リハビリテーション活動における倫理、留意点	同上
第7回		被災者の心の支援	同上
第8回		災害に対する平時の体制、準備対応	田代雅実 (診療放射線科学科)
第9回		災害ボランティアの役割と活動	同上
第10回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(被災混乱期、応急修復期)	小野田修一 (南相馬市立総合病院)
第11回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復旧期)	同上
第12回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復興期:地域生活支援)	椎野良隆 (竹田総合病院)
第13回		災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ(復興期:街づくり)	同上
第14回		行政における災害リハビリテーション	星真琴 (南相馬市健康福祉部)
第15回		国際協力と災害リハビリテーション	同上
テキスト	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会編 災害リハビリテーション標準テキスト 医歯薬出版 2018		

参考書	なし（配布資料）
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	研究方法論【保健3】	科目名(英語)	研究方法論
区分	専門教育科目	単位数	1.0
担当責任者	北爪しのぶ		
開講年次	3	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、まず論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究の倫理的な問題について理解する。研究目的からの研究立案について、身近な例をあげながら、学生に考え、議論してもらう。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について、また研究内容にプレゼンテーション方法について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。</p>			
学習目標			
<p>(1) 論文の基本構成について理解する。  (2) 基礎的な文献検索が出来る。  (3) 研究倫理について理解する。  (4) 研究目的から研究立案まで、研究のステップを理解する。  (5) 具体的な研究例を通して研究デザインを理解する。  (6) 研究のプレゼンテーション・スキルを理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション、研究事始め(リサーチマインドをもった臨床家になるために)	川又寛徳(作業療法学科)
第2回		論文の基本構成と検索の仕方	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第3回		研究のステップ、研究倫理	同上
第4回		疑問の構造化	川又寛徳(作業療法学科)
第5回		疑問のモデル化、測定デザイン(変数、アウトカム指標)	川又寛徳(作業療法学科)
第6回		測定機器(適応と限界)	福田篤志 (診療放射線科学科)
第7回		研究デザインの型1:介入研究(バイアス、交絡、治験、RCT)	義久精臣 (臨床検査学科)
第8回		研究デザインの型2:観察研究(縦断研究、横断研究)	高橋仁美(理学療法学科)
第9回		研究デザインの型3:症例・事例研究	川又寛徳(作業療法学科)
第10回		研究デザインの型4:質的研究	片桐和子(看護学部)
第11回		研究デザインの型5:基礎研究	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第12回		産学連携研究	家村俊一郎(医療-産業TRセンター)
第13回		効果的な研究発表	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第14回		論文執筆方法について	北爪しのぶ(臨床検査学科)
第15回		論文検索の実際とまとめ	北爪しのぶ(臨床検査学科)
テキスト	無し		

参考書	無し
成績の評価方法	レポート70%、小テスト30%
その他	無し

科目名	医療統計学演習【保健3】	科目名(英語)	医療統計学演習
区分	自然科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	柴田 恭子		
開講年次	3	教室	
必修/選択	4学科必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
学習目標			
・統計ソフトEZRを使って医療分野のデータ解析を行うことができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			

第26 回			
第27 回			
第28 回			
第29 回			
第30 回			
テキスト			
参考書			
成績の評価方法	提出課題100%		
その他	<p>(1) 1年次の情報処理でEZRをインストールした自分のパソコンを持参すること。</p> <p>(2) 演習課題の提出により出席確認を行います。</p> <p>(3) 下記のいずれかの項目に該当する場合は、演習課題を提出しても評価しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題演習で代筆・カンニング等、不正行為が認められた場合</li> <li>・途中退室、私語が多いなど授業態度が悪い場合</li> </ul>		

科目名	理学療法研究法演習【保健3】	科目名(英語)	理学療法研究法演習
区分	基礎理学療法学	単位数	1.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	3	教室	講義室、他
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
理学療法学における研究の概要と研究過程について理解し、卒業研究に必要な研究課題設定までの過程を実施する。具体的には学生の希望テーマによって担当教員を決定し、ゼミ形式で実施する。内容としては文献検索と論文精読、研究課題の設定、研究方法確認のための予備研究の実施、4年生の研究計画発表会への参加などにより学修する。			
学習目標			
1) 研究課題設定のための文献検索、論文読解ができる。 2) 研究課題設定過程において指導教員と討論ができる。 3) 卒業研究発表会(4年生)に参加し、質疑を行うことができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		卒業研究全体のオリエンテーション 担当教員の研究領域紹介	理学療法学科研究指導教員
第3~4回		担当教員の研究領域紹介	同上
第5~6回		研究方法論の復習と補足	同上
第7~8回		ゼミ 文献検索	同上
第9~10回		ゼミ 文献精読	同上
第11~12回		卒業研究発表会参加(2日間) 質疑応答への参加	同上
第13~14回		同上	同上
第15~16回		同上	同上
第17~18回		同上	同上
第19~20回		同上	同上
第21~22回		同上	同上
第23~24回		同上	同上
第25~26回		同上	同上
第27~28回		ゼミ 研究課題検討	同上
第29~30回		同上	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	レポート70%、卒業研究発表会での質疑30%		
その他	能動的な取り組みが必要です。自ら主体的に参加してください。		

科目名	生体運動計測学【保健3】		科目名(英語)	生体運動計測学
区分	基礎理学療法学		単位数	1.0
担当責任者	神先秀人			
開講年次	3	教室	運動療法室	
必修/選択	必修		授業形態	講義
受講要件				
授業の概要				
筋電図、三次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、筋トルク測定機器、超音波画像診断装置等を用いた評価方法とその意義について学習する。グループワークを通して、テーマの選択から実際の計測、データ解析、プレゼンテーションまでを経験する。				
学習目標				
1) 筋電図や3次元動作解析、床反力、超音波画像診断に関する基本的な知識を理解できる。 2) 機器を使用した実験を教員の指導のもとで実践することができる。 3) 実験結果について、基本的な統計手法を用いて、関連性の検討や比較を行うことができる。 4) 実験の概略ならびに得られた結果を、文書や口頭にて報告することができる。				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		表面筋電図を用いた骨格筋の量的・質的評価 1(計測目的と測定原理・臨床や研究での使用例)		遠藤
第2回		表面筋電図を用いた骨格筋の量的・質的評価 2(実際の測定方法、データ解析方法)		同上
第3回		誘発筋電図の基礎 1(計測目的と測定原理・臨床や研究での使用例)		同上
第4回		誘発筋電図の基礎 2(実際の測定方法、データ解析方法)		同上
第5回		3次元動作解析装置と床反力計を用いた動作解析の基礎1(計測目的と測定原理)		神先
第6回		3次元動作解析装置と床反力計を用いた動作解析の基礎2(臨床や研究での使用例)		同上
第7回		3次元動作解析装置と床反力計を用いた動作解析の基礎3(実際の測定方法)		同上
第8回		3次元動作解析装置と床反力計を用いた動作解析の基礎4(データ解析方法)		同上
第9回		超音波画像診断装置を用いた評価の基礎と応用 1(計測目的と測定原理)		中野渡
第10回		超音波画像診断装置を用いた評価の基礎と応用 2(臨床や研究での使用例)		同上
第11回		超音波画像診断装置を用いた評価の基礎と応用 3(実際の測定方法)		同上
第12回		超音波画像診断装置を用いた評価の基礎と応用 4(データ解析方法)		同上
第13回		グループワーク 種々の定量的検査およびパフォーマンステストを実施し、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討する。 グループワーク1:種々の機器を使用した測定実施 使用機器(課題番号):①:重心動揺計、②:筋トルク測定機器、③:超音波画像診断装置、④:筋電図、⑤:床反力計、⑥:加速度計、⑦:握力計、⑧:パフォーマンステスト(ファンクショナルリーチテスト、長座位体前屈など) (1-1 オリエンテーション)		神先・中野渡・遠藤
第14回		グループワーク1-2測定実施(グループと課題番号):グループA-①、グループB-②、グループC-③、グループD-④、グループE-⑤、グループF-⑥、グループG-⑦、グループH-⑧		同上
第15回		グループワーク1-3測定実施(グループと課題番号):グループA-②、グループB-③、グループC-④、グループD-⑤、グループE-⑥、グループF-⑦、グループG-⑧、グループH-①		同上
第16回		グループワーク1-4測定実施(グループと課題番号):グループA-③、グループB-④、グループC-⑤、グループD-⑥、グループE-⑦、グループF-⑧、グループG-①、グループH-②		同上
第17回		グループワーク1-5測定実施(グループと課題番号):グループA-④、グループ		同上



回		ブB-⑤、グループC-⑥、グループD-⑦、グループE-⑧、グループF-①、グループG-②、グループH-③	
第18回		グループワーク1-6測定実施（グループと課題番号）：グループA-⑤、グループB-⑥、グループC-⑦、グループD-⑧、グループE-①、グループF-②、グループG-③、グループH-④	同上
第19回		グループワーク1-7測定実施（グループと課題番号）：グループA-⑥、グループB-⑦、グループC-⑧、グループD-①、グループE-②、グループF-③、グループG-④、グループH-⑤	同上
第20回		グループワーク1-8測定実施（グループと課題番号）：グループA-⑦、グループB-⑧、グループC-①、グループD-②、グループE-③、グループF-④、グループG-⑤、グループH-⑥	同上
第21回		グループワーク1-9測定実施（グループと課題番号）：グループA-⑧、グループB-①、グループC-②、グループD-③、グループE-④、グループF-⑤、グループG-⑥、グループH-⑦	同上
第22回		グループワーク1-10測定実施（データ入力作業）	同上
第23回		グループワーク2:計測したデータを用い、グループのテーマを決定し、解析、考察、発表スライド作成までを行う。（2-1テーマ検討、データの選択）	同上
第24回		グループワーク2-2（データ解析）	同上
第25回		グループワーク2-3（結果に対する考察）	同上
第26回		グループワーク2-4（発表スライドの作成）	同上
第27回		グループワーク3:発表と質疑応答(テーマに基づいた解析結果を、スライドを用いたプレゼンテーション及びレジメにて発表する。3-1グループ A,B)	同上
第28回		グループワーク3-2 発表と質疑応答 (グループC,D)	同上
第29回		グループワーク3-3 発表と質疑応答 (グループE,F)	同上
第30回		グループワーク3-4 発表と質疑応答 (グループG,H) 教員によるフィードバック	同上
テキスト	特定のテキストはありません。必要に応じて資料を配布します。		
参考書	月城慶一・他訳：観察による歩行分析，医学書院		
成績の評価方法	定期試験50%、レポート30%、発表20%		
その他			

科目名	国際理学療法論【保健3】	科目名(英語)	国際理学療法論
区分	基礎理学療法学	単位数	1.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
世界の理学療法を知ることで福島および日本の理学療法水準を向上させる意思を持つこと、および国際感覚を養い、将来海外での活動に関わるための基礎知識を教授する。			
学習目標			
1) 世界の理学療法について説明できる。 2) 世界の中での日本の理学療法の位置づけを説明できる。 3) 海外で理学療法を学ぶ道について説明できる。 4) 国際支援における理学療法士について説明できる。 5) 海外で活動するために必要な能力について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		世界の理学療法 (北米・欧州)	森下
第2回		世界の理学療法 (アジア・オセアニア)	遠藤
第3回		海外から見た日本の理学療法(草創期)	清水・ミシェル・アイズマン(広島県立大学名誉教授)
第4回		海外から見た日本の理学療法 (現在)	同上
第5回		世界理学療法連盟	森下
第6回		海外研修について (欧州)	同上
第7回		海外研修について (北米)	同上
第8回		海外留学(学部・大学院)について (米国Loma Linda University)	須賀康平 (フィジカルコンディショニング・イキ)
第9回		海外留学(学部・大学院)について (米国Loma Linda University)	同上
第10回		国際支援(青年海外協力隊) (パプアニューギニア)	齋藤崇志(JICA)
第11回		国際支援(青年海外協力隊) (パプアニューギニア)	同上
第12回		国際支援(青年海外協力隊)について(ヨルダン)	高橋恵里
第13回		国際支援について (モンゴル教育支援)	遠藤
第14回		国際学会への参加について (英文抄録の書き方、参加登録)	森下
第15回		国際学会への参加について (英語でのプレゼンテーション)	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	授業中に紹介します。		

成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	理学療法管理学【保健3】	科目名(英語)	理学療法管理学
区分	理学療法管理学	単位数	2.0
担当責任者	阿部浩明		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
理学療法の実施に必要な管理運営の考え方について教授する。			
学習目標			
1) 理学療法に必要な法律制度および診療報酬制度について説明できる。 2) 理学療法に必要な診療記録、連携に必要な書類と書類管理について説明できる。 3) 理学療法部門における安全管理、リスクマネジメントについて説明できる。 4) 組織と人事考課、労務管理について説明できる。 5) 職場倫理、ハラスメント対策について説明できる。 6) 理学療法に関連する教育について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		理学療法と法律	阿部浩明
第2回		診療報酬制度	同上
第3回		診療記録と連絡	星真行
第4回		各種保険制度	阿部
第5回		個人情報管理	星
第6回		組織運営と人事	同上
第7回		労務管理	同上
第8回		理学療法業務と職場倫理	阿部
第9回		ハラスメント対策	同上
第10回		職域の拡大	星
第11回		病院機能評価	同上
第12回		保健所監査と対応	阿部
第13回		理学療法士協会と生涯教育	同上
第14回		職場教育	星
第15回		学生教育 (実習生の受入れ計画)	同上
第16回		急性期を含む一般病院でのリスクマネジメント	阿部
第17回		介護老人保健施設での業務管理	風岡都(ひもろぎの園)
第18回		介護老人保健施設でのリスクマネジメント	同上
第19回		インシデント・アクシデントと報告書作成	阿部
第20回		模擬症例による報告書作成演習	同上
第21回		理学療法室の開設(建物) グループ演習	星
第22回		理学療法室の開設(機器) グループ演習	同上
第23回		理学療法室の開設	同上

回		グループ発表（前半組）	
第24回		理学療法室の開設 グループ発表（後半組）	同上
第25回		理学療法士養成教育	柴喜崇
第26回		指定規則	同上
第27回		大学教育	同上
第28回		大学院教育	同上
第29回		臨床研究	阿部
第30回		まとめ	同上
テキスト	理学療法管理学 医歯薬出版		
参考書	理学療法管理学 南江堂		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	理学療法士に必要な法律、職業倫理、診療報酬、保険制度、管理学について教授します。		

科目名	物理療法学演習【保健3】	科目名(英語)	物理療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	3	教室	物理療法実習室、水治療法実習室
必修/選択	必須	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
各種物理療法を用いて適切な手順、設定、管理方法を理解し、実施できる技術を習得する。グループごとに各物理療法をローテーションし、全員が全ての物理療法を実際に使用し演習を行う。			
学習目標			
1. 各物理療法の適切な手順、方法、禁忌を理解できる 2. 各物理療法の禁忌に注意し、適切な手順、方法を実施できる 3. 実習課題を通して、各物理療法の効果を考察できる			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		温熱療法(ホットパック)	
第3~4回		温熱療法(パラフィン)	
第5~6回		温熱療法(超短波療法)	
第7~8回		温熱療法(短波療法)	
第9~10回		温熱療法(超音波療法)	
第11~12回		寒冷療法(伝導冷却)	
第13~14回		寒冷療法(クライオセラピー)	
第15~16回		電気刺激(干渉波、低周波)	
第17~18回		電気刺激(歩行神経筋電気刺激、筋電図誘発型電気刺激)	
第19~20回		牽引療法	
第21~22回		赤外線療法	
第23~24回		レーザー療法	
第25~26回		水治療法	
第27~28回		実習のまとめ 報告会	
第29~30回		実習のまとめ 報告会	
テキスト	PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 羊土社		
参考書			
成績の評価方法	レポート30%、筆記試験70%		
その他			

科目名	義肢装具学【保健3】	科目名(英語)	義肢装具学
区 分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	楠本泰士		
開講年次	3	教室	義肢装具実習室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
義肢および装具の基本構造、適応等について理解し、理学療法士の役割と医師や義肢装具士との協働について理解することを目的とする。内容としては、装具(上肢、下肢、体幹)の基本構造と適応、装具と理学療法、義肢(義手、義足)の基本構造と適応、切断患者のリハビリテーションと理学療法等について学修する。授業はオムニバス方式とし、講義、グループワークと討論などで行う。			
学習目標			
① 義肢装具の種類を説明できる ② 義肢装具の適応について説明できる ③ 義肢装具の適合性の確認について説明できる ④ 義肢装具のアライメント調整が説明できる			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		義肢および装具の歴史 義肢および装具の分類	楠本
第2回		義足の構造と機能 大腿義足(ソケット)	阿部真典(東北義肢)
第3回		義足の構造と機能 大腿義足(膝・足継手)	同上
第4回		義足の構造と機能 大腿義足(アライメント)	同上
第5回		義足の構造と機能 下腿義足	同上
第6回		義足の構造と機能 股義足	同上
第7回		義手の構造と機能	同上
第8回		下肢装具の構造と機能 足関節	楠本
第9回		下肢装具の構造と機能 膝関節	同上
第10回		下肢装具の構造と機能 股関節	同上
第11回		下肢装具の構造と機能 免荷装具	同上
第12回		体幹装具の構造と機能	同上
第13回		上肢装具の構造と機能 肘関節	同上
第14回		上肢装具の構造と機能 手関節	同上
第15回		義肢および装具の支給制度	阿部真典
テキスト	①義肢装具学テキスト改訂第3版 編集：磯崎弘司、他 出版：南江堂		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	義肢装具学演習【保健3】	科目名(英語)	義肢装具学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	阿部浩明		
開講年次	3	教室	義肢装具学実習室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
<p>義肢装具学での学修に基づき、具体的な実践方法について学ぶ。内容としては、装具（上肢、下肢、体幹）のチェックアウトと調整、プラスチック製短下肢装具の作成実習、仮義足の採型とベンチアライメント、脳性麻痺やの卒中片麻痺の装具、義足歩行の分析とアライメント調整、切断患者の理学療法（断端管理、関節可動域、筋力など）、義足装着練習と歩行練習などについて、デモンストレーションと実技練習などにより学修する。</p>			
学習目標			
<p>① 義肢装具のアライメント調整ができる  ② プラスチック製シューホーンブレースSHBの製造方法を理解し、適切な修正ができる  ③ 切断患者の理学療法を理解し、説明できる  ④ 義肢・装具装着時の動作を分析できる</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		オリエンテーション SHB作成手順	阿部浩明、阿部真典(東北義肢)
第3~4回		SHB作成 採型	阿部真典
第5~6回		陽性モデル作成	同上
第7~8回		陽性モデル修正	同上
第9~10回		プラスチック真空成型	同上
第11~12回		プラスチック真空成型	同上
第13~14回		プラスチック加工	同上
第15~16回		仮合わせとチェックアウト	同上
第17~18回		脳卒中片麻痺患者の装具と理学療法	阿部浩明
第19~20回		脳性麻痺児の装具と理学療法	楠本
第21~22回		切断患者のリハビリテーション(断端管理)	佐藤房郎(東北大学病院)
第23~24回		切断患者のリハビリテーション(関節可動域、筋力)	同上
第25~26回		義足のベンチアライメントと装着訓練	阿部真典
第27~28回		切断患者のリハビリテーション(義足歩行・ADL練習)	佐藤房郎
第29~30回		切断患者のリハビリテーション(異常歩行分析と対処法)	同上
テキスト	義肢装具学テキスト改訂第3版 編集：磯崎弘司、他 出版：南江堂		
参考書	<p>①義肢学第3版 著書：義肢装具学会 出版：医歯薬出版株式会社  ②装具学第4版 著書：義肢装具学会 出版：医歯薬出版株式会社</p>		



成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%
その他	

科目名	運動器障害理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	運動器障害理学療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
運動器理学療法学での学修に基づき代表的疾患の理学療法の実施方法を習得することを目的とする。内容としては、運動器理学療法学で取り上げた代表的疾患の評価方法、標準的介入方法等についてデモンストレーションと実技練習を行う。またペーパー・ペイシエントを用いた臨床推論とプログラム立案についてグループワークによる演習と発表・討論を行う。			
学習目標			
① 骨関節疾患にかかる理学療法について実施できる 変形性関節症 関節リウマチとその近縁疾患 骨折、脱臼、靭帯損傷 脊椎疾患 腰痛症 肩関節周囲炎、腱板損傷 スポーツ損傷・外傷 ② 骨関節疾患にかかる理学療法について実施できる その他の骨関節疾患			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		変形性膝関節症・人工膝関節 評価と治療	神先
第3~4回		変形性股関節症・人工股関節 評価と治療	同上
第5~6回		関節リウマチとその近縁疾患 評価と治療	同上
第7~8回		グループワーク ペーパー・ペイシエントを用いた臨床推論とプログラム立案	同上
第9~10回		骨折、脱臼 評価と治療	中野渡
第11~12回		膝靭帯損傷・半月板損傷 評価と治療	同上
第13~14回		足部靭帯損傷・アキレス腱断裂 評価と治療	同上
第15~16回		高齢者の骨折 評価と治療	同上
第17~18回		脊椎疾患 評価と治療	小俣
第19~20回		腰痛症 評価と治療	同上
第21~22回		グループワーク ペーパー・ペイシエントを用いた臨床推論とプログラム立案	同上
第23~24回		肩関節周囲炎 評価と治療	遠藤
第25~26回		腱板損傷 評価と治療	同上
第27~28回		上肢スポーツ損傷・外傷 評価と治療	同上
第29~		グループワーク	同上

30回	ペーパー・ペイシエントを用いた臨床推論とプログラム立案
テキスト	奈良勲・監修：運動器疾患の病態と理学療法. 医歯薬出版
参考書	整形外科リハビリテーション学会編集：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢 改訂 第2版, メジカルビュー社, 2014年3月, 整形外科リハビリテーション学会編集：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹 改訂第2版, メジカルビュー社, 2014年3月
成績の評価方法	定期試験40%、実技試験40%、レポート・発表20%
その他	

科目名	神経障害理学療法学演習【保健3】		科目名(英語)	神経障害理学療法学演習
区分	理学療法治療学		単位数	1.0
担当責任者	柴喜崇			
開講年次	3	教室	運動療法室	
必修/選択	必修		授業形態	演習
受講要件				
授業の概要				
中枢神経、末梢神経、筋に起因する神経障害の各病態から生じる機能障害、活動制限、参加制約に応じた基本的理学療法(リスク管理、合併症、評価、運動療法、物理療法、ADL指導、生活環境調整)が実施できるように実技練習を含めて学習する。				
学習目標				
1) 脳血管障害の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 2) パーキンソン病の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 3) 運動失調の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 4) 脊髄損傷の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 5) 神経難病の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 6) 高次脳機能障害の病態に応じた基本的理学療法を実施できる 7) 末梢神経疾患・筋疾患に応じた基本的理学療法を実施できる				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		オリエンテーション 神経障害の理学療法の評価と治療概論		阿部浩明
第2回		脳血管障害の理学療法① (急性期)		同上
第3回		脳血管障害の理学療法② (運動機能評価:SIAS、Fugl-Meyer、NIH stroke scale)		同上
第4回		脳血管障害の理学療法③ (回復期)		同上
第5回		脳血管障害の理学療法④ (維持期・生活期)		同上
第6回		高次脳機能障害の理学療法①		同上
第7回		高次脳機能障害の理学療法②		同上
第8回		高次脳機能障害の理学療法③		同上
第9回		グループ討議		柴・阿部
第10回		パーキンソン病の理学療法① 病態(無動・寡動、ジスキネジア、姿勢調整、振戦ほか)		柴
第11回		パーキンソン病の理学療法② (機能評価:Hoehn-Yahr、UPDRS)		同上
第12回		パーキンソン病の理学療法③ (脳画像と運動機能)		阿部
第13回		パーキンソン病の理学療法④ (理学療法)		柴
第14回		運動失調の理学療法① (小脳性失調症の病態・評価)		阿部
第15回		運動失調の理学療法② (小脳性運動失調の理学療法)		同上
第16回		運動失調の理学療法③ (多系統筋萎縮の病態・評価)		同上
第17回		運動失調の理学療法④ (多系統筋萎縮の理学療法)		同上
第18回		グループ討論		柴・阿部
第19回		脊髄損傷の理学療法①		阿部

回		(脊髄損傷の病態・評価)	
第20回		脊髄損傷の理学療法② (急性期)	同上
第21回		脊髄損傷の理学療法③ (回復期)	同上
第22回		脊髄損傷の理学療法④ (維持期・生活期)	同上
第23回		グループ討論	柴・阿部
第24回		神経難病の理学療法① 筋萎縮性側索硬化症の理学療法	柴
第25回		神経難病の理学療法② 多発性硬化症の理学療法	同上
第26回		神経難病の理学療法③ 多発性神経炎の理学療法	同上
第27回		末梢神経・筋疾患の理学療法① 重症筋無力症の理学療法	同上
第28回		末梢神経・筋疾患の理学療法② 末梢神経損傷の理学療法	同上
第29回		グループ討論	柴・阿部
第30回		まとめ グループ発表	同上
テキスト	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学(第2版) 吉尾雅春他編 医学書院 15レクチャーシリーズ神経障害理学療法学 I (第2版) II 大畑光司・他編著中山書店		
参考書	ベッドサイドの神経の診かた(第18版) 田崎義昭(編著) 南山堂 高次脳機能障害に対する理学療法 阿部浩明編著 文光堂 パーキンソン病の理学療法(第2版) 松尾善美・他編著 医歯薬出版 神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ-(第3版) 鈴木則宏編著 MEDICAL VIEW社 パーキンソン病診療ガイドライン2018 日本神経学会監修 医学書院 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン2018 「脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン」作成委員会 南江堂 多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン2017 日本神経学会監修 医学書院		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	シラバスに沿って授業を展開します。事前に講義内容について予め学習して臨んでください。		

科目名	内部障害理学療法学【保健3】	科目名(英語)	内部障害理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	高橋仁美		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
呼吸・循環・代謝などの内部障害を呈する患者が増加しており、理学療法の重要な分野となっている。本科目では内部障害理学療法に必要な基礎知識、評価方法および治療手段について教授する。			
学習目標			
1) 内部障害治療チームにおける理学療法士の役割について説明できる。 2) 内部障害を引き起こす各種病態を説明できる。 3) 内部障害理学療法に必要な評価手段を説明できる。 4) 内部障害に対する理学療法治療手段を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		内部障害理学療法総論	高橋仁美
第2回		呼吸障害を引き起こす病態	同上
第3回		呼吸障害の評価1 (フィジカルアセスメント)	同上
第4回		呼吸障害の評価2 (呼吸機能評価)	同上
第5回		呼吸障害の評価3 (運動耐容能評価)	同上
第6回		呼吸障害の治療1 (コンディショニングと呼吸練習)	同上
第7回		呼吸障害の治療2 (全身調整運動)	同上
第8回		心循環障害を引き起こす病態	森下慎一郎
第9回		心循環障害の評価1	同上
第10回		心循環障害の評価2	同上
第11回		心筋梗塞の理学療法	佐藤聡見
第12回		心不全の理学療法	同上
第13回		末梢循環障害の理学療法	森下
第14回		代謝障害を引き起こす病態と評価	同上
第15回		代謝障害の理学療法	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	内部障害の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。		

科目名	内部障害理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	内部障害理学療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
呼吸・循環・代謝などの内部障害を呈する患者が増加しており、理学療法の重要な分野となっている。本科目では内部障害理学療法に必要な基本的評価方法および治療手段が実施できるよう教授する。			
学習目標			
1) 呼吸障害理学療法に必要な基本的評価と治療手段を実施できる。 2) 心循環障害理学療法に必要な基本的評価と治療手段を実施できる。 3) 代謝障害理学療法に必要な基本的評価と治療手段を実施できる。 4) 内部障害に対する基本的な理学療法計画を立てられる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		呼吸障害の評価1 フィジカルアセスメント	高橋仁美
第3~4回		呼吸障害の評価2 肺音聴診	同上
第5~6回		呼吸障害の評価3 呼吸機能測定	同上
第7~8回		呼吸障害の治療1 リラクゼーション 呼吸練習	同上
第9~10回		呼吸障害の治療2 徒手的治疗手段	同上
第11~12回		呼吸障害の治療2 全身調整運動	同上
第13~14回		呼吸理学療法計画	同上
第15~16回		吸引	森下慎一郎
第17~18回		心循環障害の評価1 フィジカルアセスメント	佐藤聡見
第19~20回		心循環障害の評価2 心電図の診かた	同上
第21~22回		心循環障害の評価と治療 CPX実習	同上
第23~24回		心筋梗塞・心不全の理学療法 治療計画	同上
第25~26回		末梢循環障害の理学療法 評価と治療計画	森下慎一郎
第27~28回		代謝障害の評価と理学療法 運動療法	同上
第29~30回		代謝障害の理学療法 治療計画	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	定期試験50%、実技試験50%		
その他	内部障害の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。		

科目名	内部障害理学療法学特論【保健3】	科目名(英語)	内部障害理学療法学特論
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
呼吸・循環・代謝などの内部障害を呈する患者が増加しており、理学療法の重要な分野となっている。本科目では内部障害理学療法の具体的な課題や最新の動向を教授する。			
学習目標			
1) 呼吸障害理学療法の具体的な課題や最新動向を理解することができる。 2) 心循環障害理学療法の具体的な課題や最新動向を理解することができる。 3) 代謝障害理学療法の具体的な課題や最新動向を理解することができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		慢性呼吸障害の理学療法 (COPD)	高橋仁美
第2回		慢性呼吸障害の理学療法 (IPF、他) 急性呼吸障害の理学療法2 (早期離床)	同上
第3回		集中治療領域の治療機器 (人工呼吸器、ECMO、腎代替療法機器、他)	出羽仁(臨床工学センター)
第4回		急性呼吸障害の理学療法 (呼吸管理と理学療法)	高橋
第5回		急性呼吸障害の理学療法 (ICU-AW)	同上
第6回		脳損傷と呼吸理学療法	同上
第7回		脊髄損傷と呼吸理学療法	同上
第8回		心筋梗塞急性期の理学療法	佐藤聡見
第9回		急性心不全の理学療法	同上
第10回		慢性心不全の理学療法	同上
第11回		肺高血圧症の理学療法	同上
第12回		末梢循環障害の理学療法 (血行再建術と理学療法)	同上
第13回		代謝障害の理学療法 (合併症と理学療法)	森下
第14回		代謝障害の理学療法 (患者教育)	同上
第15回		代謝障害の理学療法 (フットケア)	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	内部障害の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。		



科目名	発達障害理学療法学【保健3】	科目名(英語)	発達障害理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	楠本泰士		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
正常発達を理解し、脳性麻痺をはじめ発達障害を呈する代表的な小児疾患の障害像を学び、療育について考える。本科目では、発達障害児に対する理学療法の考え方、および療育における理学療法の役割を理解できるよう教授する。			
学習目標			
1) 小児における理学療法評価の項目を列挙し、内容を説明できる。 2) 正常運動発達の理解を基に、各種疾患の異常運動発達について説明できる。 3) 脳性麻痺のタイプ別の特徴を理解し、自ら分類できる。 4) 脳性麻痺における各種痙性治療と小児疾患における装具の役割を理解し、説明できる。 5) 筋ジストロフィー症や染色体異常、小児における整形外科疾患の特徴を理解し、説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		発達障害理学療法総論	楠本泰士
第2回		正常運動発達	楠本・高橋恵理
第3回		正常運動発達	同上
第4回		小児の理学療法評価	同上
第5回		小児の理学療法評価	同上
第6回		脳性麻痺のタイプ別特徴	同上
第7回		脳性麻痺のタイプ別特徴	同上
第8回		脳性麻痺の理学療法	楠本
第9回		脳性麻痺における各種痙性治療と装具療法	同上
第10回		重症心身障害児・者の理学療法	同上
第11回		筋ジストロフィーの理学療法	同上
第12回		先天性神経筋疾患・染色体異常の理学療法	同上
第13回		二分脊椎・骨系統疾患の理学療法	同上
第14回		低出生体重児・小児集中治療における理学療法	小野洋子(附属病院リハビリテーションセンター)
第15回		発達障害児の理学療法	楠本
テキスト	最新理学療法講座 小児理学療法学 新田収、松田雅弘(編著) 医歯薬出版株式会社		
参考書	「小児理学療法学テキスト(改訂第3版)」南江堂 「小児・発達期の包括的アプローチ」文光堂		
成績の評価方法	小テスト10%、提出課題10%、定期試験80%		
その他	テキストや資料での講義に加え、小児のイメージを持ちやすくするため、視聴覚教材を取り入れながら授業を行います。		

科目名	発達障害理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	発達障害理学療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	楠本泰士		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
本科目では、発達障害理学療法学を基に、発達障害理学療法に必要な基本的評価方法および治療手段が実施できるよう教授し、演習する。			
学習目標			
1) 正常運動発達および脳性麻痺児の異常運動発達の運動パターンを実演できる。 2) 小児発達検査や小児の理学療法評価を実施できる。 3) 脳性麻痺のタイプ別の基本的理学療法が実施できる。 4) 脳性麻痺における各種痙性治療と装具の役割を理解し、基本的理学療法が実施できる。 5) 筋ジストロフィー症や染色体異常、小児における整形外科疾患の特徴を理解し、基本的理学療法が実施できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		正常運動発達と原始反射	楠本泰士 高橋恵理
第3~4回		正常運動発達と原始反射	同上
第5~6回		小児発達検査	同上
第7~8回		小児の理学療法評価	同上
第9~10回		小児の理学療法評価	同上
第11~12回		脳性麻痺のタイプ別、粗大運動レベル別の治療戦略	同上
第13~14回		脳性麻痺のタイプ別、粗大運動レベル別の治療戦略	同上
第15~16回		脳性麻痺の痙性治療後の理学療法	同上
第17~18回		筋ジストロフィーの理学療法	同上
第19~20回		先天性神経筋疾患・染色体異常の理学療法	同上
第21~22回		小児整形外科疾患の理学療法	同上
第23~24回		発達障害の理学療法	同上
第25~26回		療育センターでの理学療法	同上
第27~28回		PICUでの理学療法	同上
第29~30回		NICUでの理学療法	同上
テキスト	最新理学療法講座 小児理学療法学 新田収、松田雅弘(編著) 医歯薬出版株式会社		
参考書	「小児理学療法学テキスト(改訂第3版)」南江堂 「小児・発達期の包括的アプローチ」文光堂		
成績の評価方法	提出課題30%、定期試験50%、実技試験20%		
その他	事前準備として授業に対応するテキストの章を事前に復習しておくこと。演習の翌週の授業開始時に演習課題やレポートの提出を行うため、事前準備を行ったうえで授業に臨むようにする。		

科目名	老年期理学療法学【保健3】	科目名(英語)	老年期理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必須	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>75歳以上高齢者の増大にともない、理学療法の対象者は、疾病に加えて老年期の特性を抱えていることが多い。加齢にともなう生理、運動、精神心理の変化と高齢者の身体的特徴、認知・精神的な特徴を理解する。特に老年症候群（サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、低栄養、摂食・嚥下、尿失禁、認知症、うつ、睡眠障害、せん妄、転倒など）の基礎知識とそれに対する理学療法を教授する。また、高齢者の生活機能を全般的に評価する方法についても学修する。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の身体的特徴、認知・精神的特徴を説明できる。</li> <li>2. 代表的な老年症候群に対する理学療法を説明できる。</li> <li>3. 高齢者の生活機能評価と理学療法を実施するうえでの留意点を説明できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		高齢者と取り巻く環境	
第2回		高齢者の身体的特徴	
第3回		高齢者の認知・精神的特徴	
第4回		老年症候群の概要	
第5回		フレイル、低栄養	
第6回		サルコペニア	
第7回		摂食・嚥下障害	
第8回		尿失禁	
第9回		認知症、うつ	
第10回		睡眠障害、せん妄	
第11回		転倒	
第12回		寝たきり	
第13回		高齢者の生活機能評価	
第14回		健康高齢者の理学療法を実施するうえでの留意	
第15回		虚弱高齢者の理学療法を実施するうえでの留意	
テキスト	高齢者理学療法学テキスト(南山堂)		
参考書			
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	老年期理学療法学演習【保健3】		科目名(英語)	老年期理学療法学演習
区分	理学療法治療学		単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子			
開講年次	3	教室	実習室	
必修/選択	必須	授業形態	演習	
受講要件	無し			
授業の概要				
<p>老年期理学療法学で学修した知識に基づき、加齢にともなうサルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドロームなどの運動機能の評価を実習し、それぞれに対する理学療法を考える。また、加齢によって生じやすい多種多様な障害を体験できる高齢期疑似体験システムを装着し、関節拘縮、片麻痺、聴覚障害、視覚障害における起居移動動作、日常生活動作、手段的日常生活動作などを体験し、それぞれの生活機能障害の特性、それに対する対応策、理学療法士が配慮すべき安全管理を理解する。</p>				
学習目標				
<p>1. 高齢者の機能評価を理解する。  2. 物理的機器を用いた老年期の疑似的な体験をととして、老年期の特性とリスクを説明することができる。</p>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1~3回		ロコモティブシンドロームの定義 高齢期疑似体験システムを装着し、ロコモティブシンドロームを評価する ロコモティブシンドロームの計測結果を考察する		横塚美恵子、星真行、岡崎可奈子 以降同一
第4~6回		フレイル、サルコペニアの定義 高齢期疑似体験システムを装着し、フレイル、サルコペニアの評価をする フレイル、サルコペニアの計測結果を考察する		
第7~9回		老年期の関節可動域制限による起居移動動作への影響を考える 高齢期疑似体験システム(関節拘縮)を装着して、起居移動動作を体験する 老年期の関節拘縮における起居移動動作の障害とリスクを考察する		
第10~12回		老年期の関節可動域制限によるADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(関節拘縮)を装着して、ADLを体験する 老年期の関節拘縮におけるADLの障害とリスクを考察する		
第13~15回		老年期の関節可動域制限によるIADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(関節拘縮)を装着して、IADLを体験する 老年期の関節拘縮におけるIADLの障害とリスクを考察する		
第16~18回		老年期の片麻痺による起居移動動作への影響を考える 高齢期疑似体験システム(片麻痺)を装着して、起居移動動作を体験する 老年期の片麻痺における起居移動動作の障害とリスクを考察する		
第19~21回		老年期の片麻痺によるADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(片麻痺)を装着して、ADLを体験する 老年期の片麻痺におけるADLの障害とリスクを考察する		
第22~24回		老年期の片麻痺によるIADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(片麻痺)を装着して、IADLを体験する 老年期の片麻痺におけるIADLの障害とリスクを考察する		
第25~27回		老年期の視覚障害による起居移動動作とADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(視覚障害)を装着して、起居移動動作とADLを体験する 老年期の視覚障害における起居移動動作とADLの障害とリスクを考察する		
第28~30回		老年期の聴覚障害による起居移動動作とIADLへの影響を考える 高齢期疑似体験システム(聴覚障害)を装着して、起居移動動作とIADLを体験する 老年期の聴覚障害における起居移動動作とIADLの障害とリスクを考察する		
テキスト	老年期理学療法学で使用したテキスト			

参考書	
成績の評価方法	定期試験80%、レポート20%
その他	

科目名	日常生活動作分析援助学演習【保健3】	科目名(英語)	日常生活動作分析援助学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	楠本泰士		
開講年次	3	教室	日常生活活動実習室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
日常生活動作分析援助学での学修に基づき、種々の障害に対する具体的な援助方法を習得することを目的とする。日常生活活動において必要な動作全般を分析し指導できるようにする。運動器疾患のADL(人工関節全置換術後のADL、切断のADL、関節リウマチのADLなど)、中枢神経疾患のADL(片麻痺のADL、神経難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症)のADLなど)、脊髄損傷のADLについて実技練習を行う。			
学習目標			
1. 種々の障害に対する日常生活動作の分析を行い、援助することができる。 2. 種々の障害の日常生活動作の特徴やリスクを説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		車椅子操作練習、移乗動作練習。適宜、障害像を設定し実施する。	楠本泰士・高橋恵理
第2回		車椅子操作練習、移乗動作練習。適宜、障害像を設定し実施する。 車椅子移乗 自力・介助	同上
第3回		車椅子操作練習、移乗動作練習。適宜、障害像を設定し実施する。 車椅子操作 自力・介助	同上
第4回		移乗動作練習、杖歩行練習。 適宜、障害像を設定し実施する。	同上
第5回		移乗動作練習、杖歩行練習。 適宜、障害像を設定し実施する。松葉杖	同上
第6回		移乗動作練習、杖歩行練習。 適宜、障害像を設定し実施する。T字杖	同上
第7回		段差昇降練習 坂道、またぎ動作。適宜、障害像を設定し実施する。	同上
第8回		段差昇降練習 坂道、またぎ動作。適宜、障害像を設定し実施する。坂道	同上
第9回		段差昇降練習 坂道、またぎ動作。適宜、障害像を設定し実施する。またぎ動作	同上
第10回		更衣動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。	同上
第11回		更衣動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。上衣	同上
第12回		更衣動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。下衣	同上
第13回		排泄動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。	同上
第14回		排泄動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。 トイレ移乗	同上
第15回		排泄動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。 清潔操作	同上
第16回		入浴動作分析と指導、食事動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。	同上
第17回		入浴動作分析と指導、食事動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。 浴槽出入り	同上
第18回		入浴動作分析と指導、食事動作分析と指導。適宜、障害像を設定し実施する。 洗体動作	同上
第19回		運動器疾患に対するADL練習	同上
第20回		運動器疾患に対するADL練習 関節可動域制限例	同上
第21回		運動器疾患に対するADL練習 筋力低下例	同上

第22回		中枢神経疾患に対するADL練習①（脳卒中後片麻痺）	同上
第23回		中枢神経疾患に対するADL練習①（脳卒中後片麻痺） ベッド・床上動作	同上
第24回		中枢神経疾患に対するADL練習①（脳卒中後片麻痺） 歩行・移動	同上
第25回		中枢神経疾患に対するADL練習②（パーキンソン病、失調症状の患者）	同上
第26回		中枢神経疾患に対するADL練習②（パーキンソン病、失調症状の患者）パー キンソン病	同上
第27回		中枢神経疾患に対するADL練習②（パーキンソン病、失調症状の患者）失調 症	同上
第28回		脊髄損傷患者に対するADL練習	同上
第29回		脊髄損傷患者に対するADL練習 四肢麻痺	同上
第30回		脊髄損傷患者に対するADL練習 対麻痺	同上
テキスト	日常生活活動学テキスト（改訂第2版）南江堂		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	定期試験70%、実技試験30%（特に障害別 移乗介助）		
その他			

科目名	痛みに対する理学療法学【保健3】		科目名(英語)	痛みに対する理学療法学
区分	専門科目		単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司			
開講年次	3	教室		
必修/選択	必修		授業形態	講義
受講要件	無し			
授業の概要				
痛みは老若男女, 疾患を問わず共通した訴えであり, 医科学の広範領域に関連することから, 世界的にも「疼痛医学」として一学問領域が確立されており, 我が国においても医学, 理学療法学, 他各種医療専門分野においてカリキュラム化されつつある。疼痛医学では痛みが発生するメカニズムを理解し, さまざまな病態にあわせたアセスメントとマネジメントについて学ぶ。				
学習目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 痛みの概念について説明できる。</li> <li>2. 痛みの病態について, その種類と性質について説明できる。</li> <li>3. 痛みのアセスメントについて判断し, 具体的な評価技能を説明できる。</li> <li>4. 痛みの医学的・リハビリテーション学的治療・マネジメントについて判断したうえで具体的な技能を説明できる。</li> </ol>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回		痛みの概念		矢吹省司 (理学療法学科)
第2回		急性痛のメカニズム 1. 神経生理学概論		同上
第3回		急性痛のメカニズム 2. 末梢組織の炎症反応		同上
第4回		急性痛のメカニズム 3. 神経伝達と認知		同上
第5回		慢性疼痛のメカニズム 1 慢性痛症の新たな概念		同上
第6回		慢性疼痛のメカニズム 2 中枢神経系の可塑的変容		同上
第7回		慢性疼痛のメカニズム 3 脳イメージと認知		同上
第8回		慢性疼痛のメカニズム 4 さまざまな慢性痛の症例		同上
第9回		痛みのメカニズム:基礎医学からのエビデンス		小幡英章 (痛み緩和医療センター)
第10回		痛みのアセスメント 1 臨床医学的アセスメント		矢吹省司 (理学療法学科)
第11回		痛みのアセスメント 2 リハビリテーションアセスメント		小俣純一 (理学療法学科)
第12回		痛みのマネジメント 1 急性痛の治療		矢吹省司 (理学療法学科)
第13回		痛みのマネジメント 2 慢性疼痛の治療		同上
第14回		痛みのマネジメント 3 慢性疼痛のリハビリテーション		松原貴子 (神戸学院大学)
第15回		痛みのマネジメント 4 集学的医療		矢吹省司 (理学療法学科)
テキスト	沖田 実, 松原貴子 『ペインリハビリテーション 入門』、三輪書店、2019			
参考書	参考になる図書は講義の中で紹介します。			
成績の評価方法	定期試験100%			
その他	各講義に必要な資料は、講義の際に配布します。			



科目名	痛みに対する理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	痛みに対する理学療法学演習
区分		単位数	1.0
担当責任者			
開講年次	3	教室	多目的ルーム
必修/選択		授業形態	
受講要件			
授業の概要			
学習目標			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			

第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
テキスト			
参考書			
成績の評価方法			
その他			

科目名	予防理学療法学【保健3】	科目名(英語)	予防理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必須	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
わが国の成熟社会と人口構造を背景とした予防理学療法の必要性と定義を学ぶ。その上で、予防理学療法の目的を予防・治療・参加の3つに大別したときに、参加を阻害するような障害を引き起こす恐れのある疾病の発症予防、再発予防の基礎を学び、理学療法の介入の効果を考える。			
学習目標			
1. 疾病の発症を防ぐために、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、廃用症候群について説明できる。 2. 疾患の再発予防の理学療法を説明できる。 3. 健康行動を支援するための視点を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		予防理学療法学の定義	横塚美恵子
第2回		転倒の予防	横塚美恵子
第3回		廃用症候群の予防	横塚美恵子
第4回		認知症の予防	横塚美恵子
第5回		生活習慣病の予防	岡崎可奈子
第6回		労働災害(腰痛)の予防	小俣純一
第7回		再発予防(脳卒中)	阿部浩明
第8回		再発予防(心疾患)	佐藤聡見
第9回		再発予防(呼吸器疾患)	森下慎一郎
第10回		再発予防(糖尿病)	岡崎可奈子
第11回		再発予防(整形外科疾患)	神先秀人
第12回		スポーツ傷害の予防	遠藤康裕
第13回		ウィメンズヘルス	山本綾子
第14回		メンズヘルス	山本綾子
第15回		コミュニティー・プロモーション(住民主体の予防)	岡崎可奈子
テキスト	予防理学療法学要論(医歯薬出版株式会社)		
参考書			
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	予防理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	予防理学療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	3	教室	実習室
必修/選択	選択	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>予防理学療法学での学修を基に、疾病の再発予防、傷害予防、介護予防における教育啓発活動に主眼を置いた理学療法について、実践例をとおして企画、立案、運営の一連の過程を学ぶ。また、グループワークの演習を実施し、疾病の再発予防、傷害予防、介護予防のそれぞれの対象者の目的に応じた理学療法の教育啓発活動を、安全管理に配慮しながら実施できるように企画立案する。立案した活動のプログラムを模擬的に実施し、実践能力を養う。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再発予防、傷害予防、介護予防を目的とした教育啓発活動の効果を考える。</li> <li>2. 健康教室や介護予防教室における理学療法の役割を説明できる。</li> <li>3. 健康教室や介護予防教室を模擬的に運営できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		健康教室における他職種の取り組みを学ぶ	横塚美恵子、星真行、岡崎可奈子以降同一
第3~4回		健康教室における理学療法の取り組みを学ぶ	
第5~6回		疾患の増悪、傷害の予防を目的とした教育啓発活動の効果を学ぶ	
第7~8回		疾患の増悪、傷害の予防を目的とした健康教室のプログラム立案する	
第9~10回		疾患の増悪、傷害の予防を目的とした健康教室のプログラムを実施する	
第11~12回		疾患の増悪、傷害の予防を目的とした健康教室のプログラムを実施する上での注意点を考察する	
第13~14回		メディカルチェックの理学療法の役割を考える	
第15~16回		メディカルチェックを体験する	
第17~18回		メディカルチェックの結果を考察する	
第19~20回		介護予防を目的とした教育啓発活動の効果を考える	
第21~22回		介護予防を目的とした教育啓発活動を体験する	
第23~24回		介護予防を目的とした教育啓発活動を考察する	
第25~26回		介護予防における運動教室の効果を考える	
第27~28回		介護予防における運動教室を体験する	
第29~30回		介護予防における運動教室を考察する	
テキスト	予防理学療法学で使用したテキスト		
参考書			
成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%		
その他			

科目名	がん理学療法学【保健3】	科目名(英語)	がん理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	3	教室	理学療法評価室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
がんは死亡原因の1位であり、治療の進歩とともにがんサバイバーは500万人を超えており、理学療法の重要な領域となっている。本科目ではがん理学療法に必要な基礎知識、評価方法、リスク管理、および治療手段について教授する。			
学習目標			
1) がんリハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 2) がん理学療法の対象疾患について説明できる。 3) がん理学療法を実施する際のリスク管理について説明できる。 4) がん疾患の理学療法の効果とその機序について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		がんリハビリテーション総論 チームアプローチと理学療法士の役割	森下慎一郎
第2回		がんの病理学	同上
第3回		がん治療の現状	同上
第4回		化学療法の合併症とリスク管理	同上
第5回		放射線治療の合併症とリスク管理	同上
第6回		悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ	同上
第7回		疾患別がん理学療法 脳腫瘍・頭頸部がん	同上
第8回		疾患別がん理学療法 乳がん・婦人科がん	同上
第9回		疾患別がん理学療法 肺がん・消化器がん	同上
第10回		疾患別がん理学療法 骨・軟部腫瘍	同上
第11回		疾患別がん理学療法 造血器腫瘍・小児がん	同上
第12回		クリーンルームでの理学療法	同上
第13回		リンパ浮腫と理学療法	同上
第14回		心理サポート	同上
第15回		緩和ケアと理学療法	同上
テキスト	辻哲也、編：標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻。がんのリハビリテーション。医学書院、2018。		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	解剖学、生理学、運動学、内科学などの関連する科目を復習した上で、授業に臨むこと。		

科目名	がん理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	がん理学療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	森下慎一郎		
開講年次	3	教室	理学療法評価室
必修/選択	選択	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
本科目ではがん理学療法学に基づき、がん理学療法に必要な基本的評価方法、リスク管理、および治療手段が実施できるよう教授し、演習する。			
学習目標			
1) 代表的ながんに対する基本的理学療法の評価と治療計画を立案できる。 2) がん理学療法を実施する際のリスク管理が実施できる。 3) がん患者を包括的にとらえ援助することができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		がん理学療法の実践応用	森下慎一郎
第2回		疾患別がん理学療法 模擬症例1(肺がん患者)	同上
第3回		疾患別がん理学療法 模擬症例1 グループワーク(情報収集と評価)	同上
第4回		疾患別がん理学療法 模擬症例1 グループワーク(治療計画とリスク管理)	同上
第5回		疾患別がん理学療法 模擬症例1 課題発表	同上
第6回		疾患別がん理学療法 模擬症例2(白血病患者)	同上
第7回		疾患別がん理学療法 模擬症例2 グループワーク(情報収集と評価)	同上
第8回		疾患別がん理学療法 模擬症例2 グループワーク(治療計画とリスク管理)	同上
第9回		疾患別がん理学療法 模擬症例2 課題発表	同上
第10回		リンパ浮腫と理学療法 (病態と評価)	山本優一(北福島医療センター)
第11回		リンパ浮腫と理学療法 (治療とリスク管理)	同上
第12回		クリーンルームでの理学療法の実際	森下
第13回		緩和ケアと理学療法の実際	同上
第14回		がんサバイバーの体験談と理学療法	同上
第15回		まとめ	同上
テキスト	辻哲也、編：標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻。がんのリハビリテーション。医学書院、2018。		
参考書	必要に応じて紹介します。		

成績の評価方法	定期試験100%
その他	解剖学、生理学、運動学、内科学などの関連する科目を復習した上で、授業に臨むこと。

科目名	スポーツ理学療法学【保健3】	科目名(英語)	スポーツ理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	遠藤康裕		
開講年次	3	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>スポーツ外傷・障害の病態を理解し、主要な疾患に対する理学療法を理解すること、また障害者スポーツに対する理学療法を理解することを目的とする。内容としては、スポーツ外傷・障害の病態、スポーツ外傷の応急処置、スポーツ障害の予防、スポーツの特性に応じた運動療法、競技復帰への支援、他のスポーツ関連職種との協働と連携などについて学修する。授業はオムニバス方式とし、講義と演習等で行う。</p>			
学習目標			
<p>① スポーツ理学療法の概要と考え方について説明できる  ② スポーツ活動支援における理学療法士の役割について説明できる  ③ スポーツ活動支援における理学療法について説明できる  ④ 障がい者スポーツ支援の概要と考え方について説明できる  ⑤ 障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について説明できる</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		スポーツ理学療法の概要・考え方、スポーツ活動支援における理学療法士の役割	遠藤康裕
第2回		スポーツ外傷・障害に対する理学療法(下肢・体幹)	同上
第3回		スポーツ外傷・障害に対する理学療法(上肢)	同上
第4回		スポーツ外傷・障害の予防のための理学療法	同上
第5回		プロスポーツにおける理学療法の考え方	服部和彦(いわきFC)
第6回		プロスポーツにおける理学療法の実際	同上
第7回		地域における中高生スポーツ支援(福島県理学療法士会の活動)	嶋原智彦(リハビリテーションセンター)
第8回		障がい者スポーツ支援の概要・考え方	松尾洋平(総合療育センター)
第9回		障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割	同上
第10回		障がい者スポーツ支援における理学療法の実際(障害特性、競技特性を踏まえた知識と技術)	遠藤
第11回		障がい者スポーツ支援における理学療法の実際	野村潤(リハビリテーションセンター)
第12回		海外におけるスポーツ理学療法	遠藤
第13回		スポーツ支援における多職種連携	同上
第14回		スポーツ理学療法の実際	同上
第15回		まとめ	同上
テキスト	特定のテキストはありません。適宜資料を配布します。		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	レポート80%、小テスト20%		
その他	積極的に授業に参加し、興味を深めてください。		



科目名	地域理学療法学演習【保健3】	科目名(英語)	地域理学療法学演習
区分	地域理学療法学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	3	教室	講義室
必修/選択	必須	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>地域理学療法学で学修した知識に基づき、地域での理学療法を実践する能力を修得することが目的である。生活期に視点を置き、各障害（廃用症候群、脳血管障害、骨関節疾患、神経障害、呼吸・循環障害）の生活機能障害に対する理学療法を考える。介護老人保健施設、訪問リハビリテーションにおける理学療法の取り組み、その効果、今後の課題について、演習をとおして考える。また、生活環境整備の知識を深めるために、福祉機器や住環境整備の体験も行う。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各障害に対する生活期に必要な理学療法を考える。</li> <li>2. 介護老人保健施設における理学療法、訪問理学療法の効果を、論文をとおして科学的視点を持って考える。</li> <li>3. 見学体験をとおして、障害に合わせた住宅改修や福祉用具の適応を考える。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		生活期における廃用症候群の理学療法を考える	横塚美恵子、星真行、岡崎可奈子以降同一
第3~4回		生活期における脳血管障害の理学療法を考える	
第5~6回		生活期における骨関節疾患の理学療法を考える	
第7~8回		生活期における神経障害の理学療法を考える	
第9~10回		生活期における骨関節疾患の理学療法を考える	
第11~12回		生活期における神経障害の理学療法を考える	
第13~14回		訪問理学療法の目的を理解する	
第15~16回		訪問理学療法の方法を理解する	
第17~18回		訪問理学療法の効果を理解する	
第19~20回		介護老人保健施設における理学療法の目的を理解する	
第21~22回		介護老人保健施設における理学療法の方法を理解する	
第23~24回		介護老人保健施設における理学療法の効果を理解する	
第25~26回		障害に合わせた福祉用具を学ぶ	
第27~28回		福祉機器の適応を考える	
第29~30回		福祉機器の禁忌を考える	
テキスト	地域理学療法学で使用した教科書		
参考書			
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	基本的臨床技能演習【保健3】	科目名(英語)	基本的臨床技能演習
区分	臨床実習	単位数	1.0
担当責任者	遠藤康裕		
開講年次	3	教室	理学療法評価室、運動療法室、講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
本科目は臨床実習Ⅲ～Ⅴを受講するための基本的臨床技能を包括的に修得すること、および修得の程度が臨床実習を受講する水準に達しているか判定することを目的とする。			
学習目標			
1) 模擬患者の評価に必要な情報収集ができる。 2) 模擬患者に対して医療面接を実施できる。 3) 模擬患者に対して必要な検査測定を実施できる。 4) 模擬患者の評価結果を記録し報告できる。 5) 臨床実習(評価実習・総合実習)を受講する能力を示すことができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		オリエンテーション 情報収集	臨床実習担当教員
第3~4回		医療面接	同上
第5~6回		記録 連絡と報告	同上
第7~8回		標準予防策	同上
第9~10回		模擬症例提示 練習(情報収集)	同上
第11~12回		模擬症例 練習(医療面接)	同上
第13~14回		模擬症例 練習(移乗動作)	同上
第15~16回		模擬症例 練習(身体計測)(関節可動域測定)	同上
第17~18回		模擬症例 練習(筋力測定)	同上
第19~20回		模擬症例 練習(動作分析)	同上
第21~22回		模擬症例 練習(記録)(報告)	同上
第23~24回		基本的臨床技能試験 1. 医療面接 2. バイタルサイン測定 3. 身体計測・ROM測定 4. MMT測定	同上

		5. 動作分析	
第25~ 26回		同 上	同 上
第27~ 28回		同 上	同 上
第29~ 30回		同 上	同 上
テキスト	基本的臨床技能演習実施要領		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	基本的臨床技能試験100%		
その他	1) 基本的臨床技能試験では各項目で60%以上の得点で合格とします。 2) 基本的臨床技能試験に不合格となった場合、1週間後に再試験を1回に限り実施します。		

科目名	臨床実習Ⅲ（理学）【保健3】	科目名（英語）	臨床実習Ⅲ（理学）
区 分	臨床実習	単位数	4.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	3	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件	3年前期の必修科目の単位を修得していること。		
授業の概要			
<p>「臨床実習Ⅲ」では理学療法の対象者の評価を実施する能力を習得することを目的とする。内容としては、理学療法の代表的な対象疾患で典型的な症状や障害を呈する症例に対して、臨床実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、必要な検査測定を実施し、問題点を把握する。本臨床実習は、すべて福島県内の医療機関や介護老人保健施設で実施する。その中で、福島県の地域に根差したそれぞれの実習施設において、地域の特性に合わせた理学療法士の役割も学ぶ。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に対応する科目である。担当教員は定期的に学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに現地巡回を行って指導する。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検査・測定や対象疾患に対する基本的知識を述べることができる。</li> <li>2) 医学的情報および環境を含めた社会的情報を収集できる。</li> <li>3) 症例に対して適切な検査・測定項目を選択することができる。</li> <li>4) 検査・測定を正確に実施することができる。</li> <li>5) 一般情報、検査・測定結果を統合的に解釈して、問題点を抽出することができる。</li> <li>6) 評価結果の記録を適切に行なうことができる。</li> <li>7) 症例に関する口頭および文書による報告を適切に行なうことができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
1 週	オリエンテーション、施設内見学、理学療法場面見学	臨床実習指導者 臨床実習担当教員	
2 - 3 週	診療参加型実習、情報収集・評価		
4 週	診療参加型実習、情報収集・評価、まとめ		
テキスト	臨床実習要綱（実習の手引き）、臨床実習関係書類		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告（発表及び報告書）20%、ポートフォリオ20%		
その他	実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施します。		

科目名	臨床実習Ⅳ（理学）【保健3】	科目名（英語）	臨床実習Ⅳ（理学）
区 分	臨床実習	単位数	7.0
担当責任者	柴喜崇		
開講年次	3	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件	3年前期の必修科目の単位を修得していること。		
授業の概要			
<p>「臨床実習Ⅳ」は理学療法の対象者の評価から治療までを経験し治療能力を習得する総合実習である。実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、代表的な疾患に対して評価および治療を経験する。この過程で治療プログラムの立案も経験し、臨床的思考過程を学ぶ。本臨床実習は、すべて福島県内の医療機関や介護老人保健施設で実施する。その中で、福島県の地域に根差したそれぞれの実習施設において、地域の特性に合わせた理学療法士の役割も学ぶ。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に対応する科目である。担当教員は定期的に学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに現地巡回を行って指導する。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 指導者の助言を仰ぎながら、他部門との情報交換ができる。</li> <li>2) チーム医療の必要性を認識することができる。</li> <li>3) 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識を述べることができる。</li> <li>4) 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。</li> <li>5) 基本的な治療（技術）を実施できる。</li> <li>6) 治療プログラムの立案ができる。</li> <li>7) 対象者のリクスを把握し、指導者の助言を仰ぎながらリスクの配慮、管理ができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
1 週	オリエンテーション、施設内見学、理学療法場面見学	臨床実習指導者 臨床実習担当教員	
2 - 6 週	診療参加型実習、情報収集・評価・プログラム立案・治療 カンファレンス等参加		
7 週	診療参加型実習、情報収集・評価・プログラム立案・治療 まとめ		
テキスト	臨床実習要綱（実習の手引き）、臨床実習関係書類		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告（発表及び報告書）20%、ポートフォリオ20%		
その他	実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施します。		